

# 9部

## 3月卒業者アンケート結果

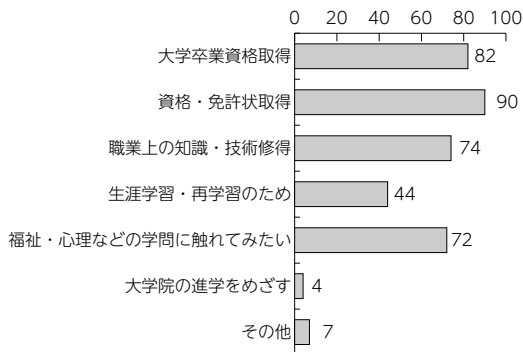
平成27年3月に本学通信教育部を卒業された方を対象にアンケート調査を実施しました。『With』108号に引き続き、アンケート結果をご紹介します。今後の通信教育部での学習にご活用いただけたらと思います。

## 1. アンケートの概要

アンケートの回収状況は、社会福祉学科が110名、福祉心理学科が34名です（卒業生283名中144名、回収率50.9%）。本アンケートにご協力いただいた方の入学月は、4月入学が137名、10月入学が7名であり、入学コースは1年次編入が21名、2年次編入が6名、3年次編入が114名、無回答が3名でした。

## 2. 入学動機

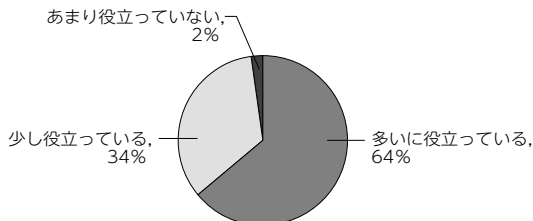
本学への入学動機（複数回答）は図1のとおりです。



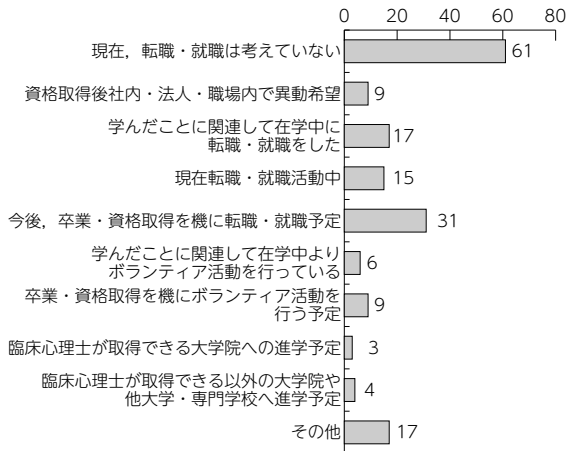
【図1】入学動機 (N=373 複数回答)

## 3. 学びがどの程度役立っているか、および今後の資格等の活用について

通信教育部での学びが職場や家庭などの日常生活でどの程度役立っているかについては、図2のとおりです。また、卒業後の進路については図3のとおりです。



【図2】学びがどの程度役立っているか (N=144)



【図3】在籍中・卒業後の進路 (N=172 複数回答)

通信教育部で学んだことで役立てていること、今後どのように活かしたいかについて具体的なご意見は、下記のとおりです。

#### 【役立てていること】

- ・ 1番役に立ったと思っているのは、人の支援をするにあたって自分がどういう傾向にあり、何が足りなかったかを自覚できたことです。知識はもちろんですが、「人」への理解不足、支援過程での配慮不足、1人で支援するのではなく、周囲をいかに巻き込み、協力しあっていくか…。後輩を指導する際のアプローチの仕方も教わったような気がします。
- ・ 公営住宅の管理に関わる仕事をしていますが、福祉的な課題が多く、実務に学習が役立っています。
- ・ 心理学という身近な学問を学び、自分自身の助けとなっているように感じます。悩んでいた、苦しんでいたことに対し、学んだことを活かして自分なりに解決方法を見つける手助けになっているように思います。
- ・ 受験生の母として自分自身のメンタルコントロールや子供たちへの教育分野で心理学を活用することができたと思います。
- ・ 介護支援専門員として働いていますが、恥ずかしながら相談援助や面接の技術について未熟でした。学習したことを念頭に置き、面接するように心がけています。利用者との信頼関係の構築が、より一層深くなっているように感じています。
- ・ 家庭においても、夫や子どもたちとの関係について考える機会が増えました。家族とは何かを考えることで、現在の自分の小さな幸せを再確認してい

ます。

- ・現在、福祉や心理学の専門職ではないが、学んだことが人間を理解する（相手を理解する）姿勢として役立っている。できれば転職し、専門職に就きたい。
- ・生涯発達心理学や他の科目でライフサイクルについて学び、今まで歩んできたステージ、これからのステージについて考えを深め、様々な年代の方にお会いする中で、更年期や老いも自然のことと受け止めたいと思えるようになった。今後のことを推測しながら今どうありたいか考えるようになった。
- ・高齢者が抱えている問題、ニーズ、健康、関連疾患を学び深めることができました。学びを踏まえ、健康寿命を延伸させるリハビリ医療に取り組んでいく決意です。
- ・人の見方や視野が広がり、人権を尊重し、偏見を持たない努力を行なえるようになった。
- ・福祉事業の人材育成と地域づくりコーディネーターをしています。今を支える知識、技術、モチベーションの源が東北福祉大学での学生生活だったと思います。学びと実践の相互作用を楽しんだ4年間でした。
- ・精神障害を持つ当事者として、病気や病状の変化、寛解の状態など、自己理解に多いに役立った。
- ・高齢者通所介護施設に転職したため、社会保障制度や医学一般など関連する科目で学習した知識がとても役に立っています。まだまだ知らなければいけないことが多いので、もう一度スクリーニング資料やテキストを見直さなければと思っています。
- ・社会福祉士の資格を取得したことで、就職の選択肢が増えました。社会福祉協議会の事務職の求人でも、最近ほとんどが社会福祉士の資格を必須要件としているので、そのような職業に就くことも視野に入れられるようになりました。
- ・介護施設の事務職ではありますが、現場を見てもっと仕事ができるようになりたい、勉強するからには1つの節目の目標として社会福祉士を目指そうと思って入学しました。どの先生も現場の今を踏まえた内容でとてもわかりやすく、国家試験の受験を意識した内容で、授業にでたことが最大の受験勉強になったと思います。現場で、業務のあり方での話になったとき、社会福祉や高齢者福祉の本質について自分なりに習ったことを話すことができるようになり、大いに役立っています。

### 【今後に活かしたいこと】

- ・とにかく、先生方の熱い想いが自分を刺激してくれました。自分も周りに影

響を与えられる人間になりたいです。人材不足といわれる福祉の業界を盛り上げていきたいです。

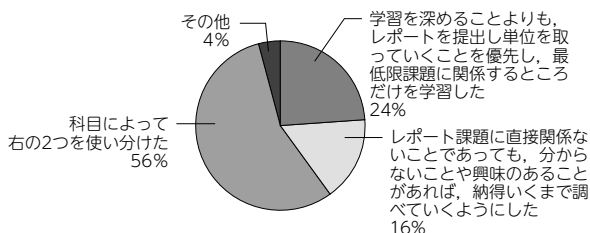
- ・現在の仕事の上で考え方等に役立てていきたくと思っています。多くのレポートを作成してきましたので、仕事上書くことに慣れ、以前よりポスターセッションの作成、論文がスムーズになり、書くことに抵抗がなくなりました。
- ・この4年間で精神保健福祉士と認定心理士の資格を得た。目的は2人のひきこもりの息子の自立のためだったが、この4年間で彼らも少しずつ変化し、通院を経て、神経症や自閉症スペクトラムの診断がついた。これらの変化も私が大学で学んだことが大きいと思う。これからも大学で学んだことをもとに彼らにとって必要な支援を行っていきたくと思う。それと同時にひきこもりに悩む他の家族の支援もしていきたいと思う。
- ・私は高校のときに病気になりました。病気を持っているということを知り、制限がある中で生活してきましたので、自分のことを自分でできるということがとても幸せです。通学はできず、通信教育は2つ目です。大学で学んだことは何よりも自分自身のため、今後の自分自身の健康のためになりました。これからもそれは変わらないと思います。
- ・地域や職場（大学）での心理的な悩みを抱えた人たちの助けになれるよう努力していきたいと考えています。
- ・今行っている幼児健診の仕事で、個々様々な対象の母子に人として心ある接遇を忘れずに働いていきたい。
- ・介護支援専門員として、学んだ知識を役立てていきたいです。「幸せになる」を目指して日々仕事をしています。黙って座っていても幸せにはなれないと思います。何か方法を見つけ出し続けていかなければいけません。その方法が形としてあるのであればそれを使用する、ないのであれば作り出していくことも私たちの役割です。先生方の福祉に対する熱い思いを聞く度に、私の考え、思い、行動は間違っていないと、力と勇気をもらいました。
- ・地域ケアシステムに活かしていきたいです。包括的に利用者や家庭を考えていかななくてはいけないことや、精神疾患、認知症、難病ターミナル、身体障害者、発達障害等、総合的な関わりをもって対応が必要になってきています。まだまだ勉強は足りませんが、方向性や視点、考え方を学ぶことができたと感じています。
- ・駆け足での2年間でしたので、国家試験の再受験に向けて、今一度大学で学んだことを振り返り、理解を深め、広い視野を持つこと。現場を通じ、高齢者にとっての住みやすい社会を改めて考えていきたくと思っています。
- ・成年後見に興味があります。もともと法学部出身で、社会保険労務士の資格

を取得しているため、高齢者・障害者の権利擁護関係の仕事に就くことができると考えております。また、福祉は法律の上に構成されているにも関わらず、実務を行っている方はこれを意識して仕事を行っていないように感じられます。法律と福祉を学んだものとして、福祉の実務を行う方と法律の規定を結ぶ架け橋的な役割を行うことができるとも思っています。

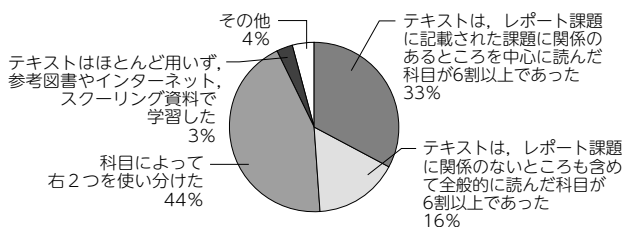
#### 4. 学習方法および学習頻度・時間

学習に対していかに取り組んだかについて、図4のとおり「科目により使い分けた」方が多くなっています。テキストをどのように活用したかについても、図5のとおり「レポート課題に関係があるところを中心に読んだ」と「全般的に読んだ」を使い分けた方が多いようです。

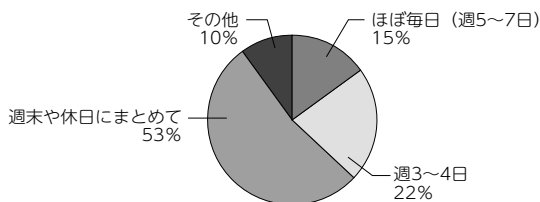
学習頻度は、図6のとおり「週末や休みの日にまとめて」行った方が多くなっています。ただし、最短修業年限で卒業した方だけに限ると「ほぼ毎日」学習した方の割合が増えています。また、図7のとおり、1週間あたり10時間前後の学習時間を設けた方が多いようです。なお、図7で「ほとんどしていない」という回答は「スクーリング後や科目修了試験前に集中してやっている」方です。



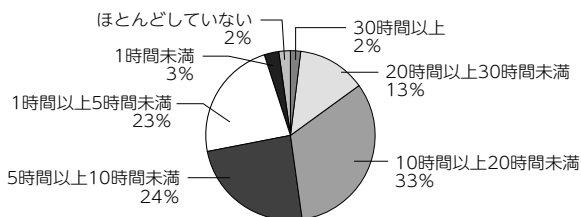
【図4】学習にいかに取り組んだか (N=142 ※無回答2)



【図5】テキストをいかに読んだか (N=144)



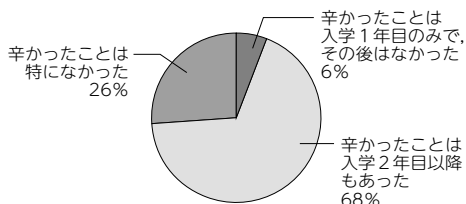
【図6】 学習頻度 (N=144)



【図7】 1週間あたりの学習時間 (N=143 ※無回答1)

## 5. 具体的な学習状況

学習していて辛かったことはあったかについては、図8のとおり「辛かったことは入学2年目以降もあった」が多く、多くの学生さんがそれぞれの辛さを乗り越えられて卒業された様子が伺えます。



【図8】 学習していて辛かったことはあったか (N=144)

①具体的な辛かったこと、②克服・対処した方法、③どうすれば対処・回避できたと思うかについては以下のとおりです。

- ・①なかなかやる気がでなかった。②スクーリングの授業を受講するたびに「あの授業までにはレポートを○単位分提出する」と決めて取り組んだ。③計画性をもって、早めに取り組む。
- ・①周囲の人に理解してもらえず批判されたこと。②著名人の言葉『コツコツやれば、必ず誰かが見てくれる』、『道は千も百も万もある』を励みにした。

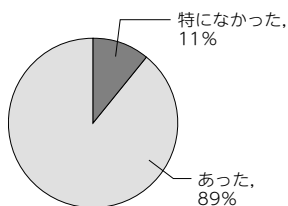
- ・①なかなかやる気がでなかった，レポートにどのようにまとめてよいかわからず，テキストの内容が理解できなかった。②時には気分転換をはかることをしたり，まず一歩でも前に進める。机に向かって少しでも進めば，先が見えてくることにつながった。レポートの評価など帰ってくるときの達成感が励みになった。③目標をもって頑張るしかない。レポートは思ったようにできあがらなくても，まずは先生に提出してみることが良いと思った。具体的なアドバイスに助けられました。
- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった。仕事で体調を崩し，学習がその間滞り，その年度ぎりぎりレポートを提出したこと。②家族や同僚・上司の協力を得た。通信教育部へ相談し，学習の立て直しをした。③計画を立てた頃はやる気だけで動いており，途中の息抜きの時期等を考慮していなかったため，バランスを考えることが必要だったと思う。
- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった。②未完のレポート名と単位数を一覧表にしてケースに入れ，励みました。レポートの単位を修得できた科目を一覧表でチェックするのが楽しみだった。③日々精一杯できるだけ学習する。図書館で熱中して学習する。
- ・①レポート課題に取り組むも，分からないことが出てくると中断してしまい，そのままになってしまった。再度取り組むときにはまた最初からになってしまった。②教科書以外の資料を利用し，わかりやすい表現で書いてある文献を参考にした。
- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった，レポートが思うように書けなくて行き詰ったこと。②古本屋やネット中古販売で文献を探したり，大学で知り合った仲間からアドバイスをもらったりした。レポート作成時に学生の頃聞いていた好きな音楽を聴くことで，勉強していた当時を思い出しやる気につながった。
- ・①なかなかやる気がでなかった，レポート再提出になった。自分に合う対人援助職を見つけることができず悩みました。②課題に関連するオンデマンドのレポートアドバイスを何度も傾聴。実際に働く専門職の姿を見て，話を聞いて，自己を振り返った。③積極的に自らの動き，触れ，考え，自分の中に昇華させ具現化させること。
- ・①レポート課題の意図するところがつかめず苦労した。②友人と連絡し合い，レポート課題で求められることを一緒に考えた。心理学概論の佐藤先生の「再提出は恐れず，先生と文通していると思って書く！」という言葉に励まされた。③スクーリング中に構想を練ってレポートに取り組みれば良かった。
- ・①国家試験対策。思ったように学習時間が取れず焦る一方だった。②毎朝出



勤前に1時間、夜2～3時間の学習時間を確保。試験4か月前より残業をやめ、家事はさぼれるだけさぼった。③計画性をもって、早めに取り組む、夏前から国試対策をすればよかった

- ・①妊娠・出産が重なったため、実習を行うかどうか大変悩んだ。決断した後も家事・育児との両立に悩んだ。②家族や保育園の助けを借り、乗り越えることができた。実習指導の時、田中治和先生から「お子さんも一生懸命学んでいるお母さんの姿を見えていますよ」と励ましていただき、不安はあるが、頑張ろうと思えた。③先々を見越して前倒しで学習を進めておくこと。出産前に次年度のレポートまである程度手を付けておけたので、産後でも乗り切れた。レポート課題が昨年度のものでもOKだったのは助かった。別レポートも大いに助かった。
- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった、体調を崩してしまった。②とにかく初心を忘れるべからず。入学した時の気持ちを支えに頑張った。③家事面で夫がサポートしてくれた。家族の支えを得ることができることが重要。
- ・①レポート課題が思うように進まず単位が取得できるか不安だった。②学習計画を練り直すとともに、自らを鼓舞し、なんとかこなすことに集中した。通信教育部事務の方からも「丁寧にやるのはいいが、要領のよさも求められる。とにかくレポートを書いて出してみては」とご指導いただきました。③学習の手引きを熟読し早い段階で通信教育のシステムの理解を深めておく。失敗を恐れず行動する。

学習していて楽しかったことについては、図9のとおり「楽しかったことがあった」が9割弱でした。



【図9】学習していて楽しかったことはあったか (N=140 ※無回答4)

具体的な内容としては、下記のとおりです。

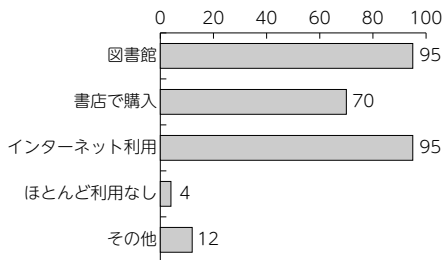
- ・新しい知識が増え、視野が広がったこと、ともに学ぶ仲間ができたこと、学んだことが仕事や家庭などに生かされたこと。
- ・テキスト中に自分で漠然と抱いていた考え方や想いについて明確に文章化さ

れていることがあり、とても嬉しかったり、これでいいんだとか励まされたりした。

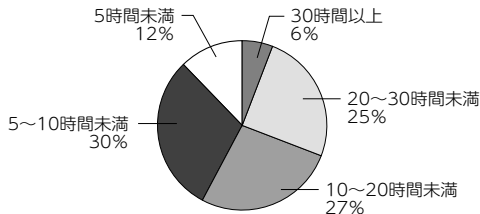
- ・人・学習内容共に心の琴線に触れるような出会いが多くあった。すべての科目において新たな喜びと感動があった。
- ・やりたかったこと（心理学）がなにより楽しかったです。学生気分も新鮮でよかったです。スクーリングも楽しかったです。
- ・図書館でレポート課題に合う文献を見つけられた時。文献で感動する内容を読んだとき。
- ・レポート返却の際の、先生からのあたたかいコメントを読むことが楽しかった。
- ・先生の実践に基づくおもしろい話をたくさん聞くことができた。グループワーク、実習などは実践に近いのでどのように活かすか考えながら楽しく行うことができた。

## 6. レポート学習について

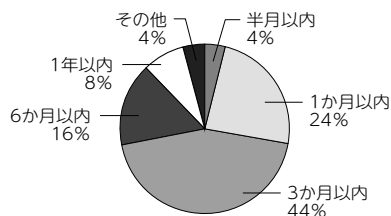
テキスト以外の参考文献の入手方法については図10のとおりです。1単位分のレポート作成に要した平均延べ時間については図11のとおりです。入学後初めてレポートを提出したのは「3か月以内」が多いようです（図12）。



【図10】 参考文献入手方法 (N=276 複数回答)



【図11】 1単位分のレポート作成に要した平均延べ時間 (N=142 ※無回答2)



【図12】入学後初めてレポートを提出した時期 (N=141 ※無回答3)

レポート学習についての在學生へのアドバイスは下記のとおりです。

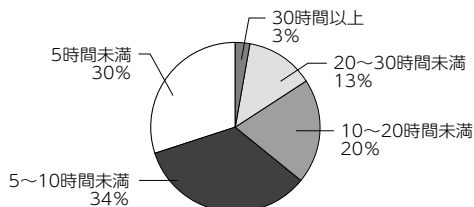
- ・スクーリングでは教科書に書いていない先生の言葉を直接聞くことで学習内容を理解できます。スクーリング前にレポート課題を読み、授業中ノートにレポートに関わる言葉をピックアップすることで、より理解できました。
- ・レポートを1冊投函した後に休まないことでしょうか。やる気を再起動するのは継続よりエネルギーが必要になると思います。
- ・取り組みやすいものから始める。できないと思ったら違うものに取り組む。レポート課題集のアドバイスは何度も読んだ方がいい。教科書は必要な部分以外にも参考になることが書いてあることが多いので、全体に一度目を通した方がいい。
- ・まず何を到達目標にしているのか、ポイントを絞りながら学習を進めると良いと思います。ふと思いついた自分の考えや、自分の普段と違う視点から課題が見えたときのインスピレーションを大切にするといいと思います。毎回、エビデンスとともに自分の考えを先生にぶつけるつもりでレポートに取り組みました。
- ・参考文献や教科書の要点まとめのレポートは自分の知識として定着させん。苦勞しても自分の言葉でまとめられる学習をした方が糧になります。
- ・まず該当科目の教科書を読むこと。次に別の科目の教科書の使える部分がないか探す。更に自分で選んだ参考書を読む。レポートを書き出す前に序論・本論・結論を明確にするために簡単なレジюмеを作るといいです。あとはとにかく書いて提出することです。再提出でもアドバイスがもらえます。試験も受けられます。
- ・参考文献を数種類読み、外枠を理解してから自分の考えをまとめると良いと思います。
- ・教科書・インターネットなどで得た知識と自分の体験をいかに融合してレポート作成に臨むかが大切だと考えます。
- ・年間(マクロ)、週間～月間(メゾ)、1日(ミクロ)に分けて学習計画を立てるといつまでに何をやれば良いのか可視化できます。私はExcelで計画表

を作り、進捗状況を把握していました。

- ・レポートを書く勇気を持ってください。たとえそれが不可となっても続けていくうちに書くことに慣れてきます。レポートを完成させることが楽しみになってくるはずです。最初の一步を勇気をもって踏み出してください。それが大きな成功の一步となります。

## 7. 科目修了試験について

科目修了試験準備（1科目）に要した平均延べ時間数は図13のとおりです。



【図13】 1科目の科目終了試験準備に要した平均延べ時間（N=131 ※無回答13）

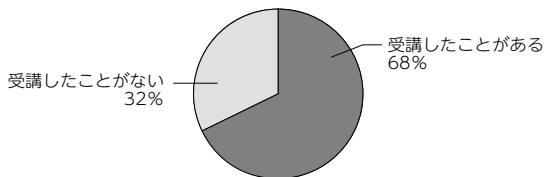
科目終了試験対策について在学生へのアドバイスは以下のとおりです。

- ・ヤマをはるのは危険。時間がなくても教科書を軽く全体的に目を通しておいた方がいい。ただ「見る」「読む」だけでなく、手を使って「書く」方が覚えやすい。
- ・レポートの内容とは関係のない問題がでる科目もあり、過去問が重要になります。問題の出題傾向を知るためにも科目修了試験を多く受け、問題用紙を入手すべきです。問題用紙には他の科目の問題も記載されています。
- ・恐れず受けると良いと思います。初めての時はかなりドキドキでしたが、どのようなものかわかると慣れると思います。
- ・科目修了試験は、レポート課題を中心に、自分の言葉でまとめる学習を行うと難しくないので大丈夫です
- ・試験問題を共有できる友人を作り、傾向と対策を行なった。
- ・時間配分が当日だとなかなかうまくいかないし、前もって準備した内容も3割忘れてしまう。事前に練習しておくことが大切。
- ・国試の勉強を並行していると重要なことがわかります。
- ・科目修了試験は知識を獲得する通過点にすぎません。試験に関わらず自分の知識取得のため学習しているということを忘れずに。

## 8. オンデマンド・スクーリングについて

オンデマンド・スクーリングについては図14のとおり「受講したことがある」

が6割以上となりました。



【図14】 オンデマンド・スクーリングを受講したことがあるか (N=142 ※無回答2)

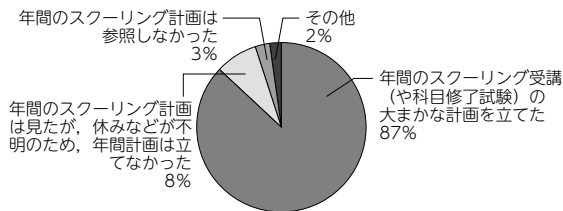
オンデマンド・スクーリングを受講しての感想は下記のとおりです。

- ・好きな時間に取り組みやすい便利だった。
- ・一時停止や巻き戻しなどができる科目もあり、学習しやすかった。
- ・遠方に住んでいるので、交通費などの節約になってよかった。
- ・パソコン操作に慣れるのに時間がかかりましたが、とても便利でした。
- ・オンデマンド・スクーリングがなければ卒業できなかった。
- ・教科書だけで勉強するよりわかりやすかった。

オンデマンド・スクーリングについては、「やはり生のスクーリングの方が良い」「講師によってスクーリング試験の量に差がある」「内容が少し古い」などのご意見も寄せられています。今後も学生のみなさんのご意見を参考に、改善を行っていきたいと考えております。

## 9. 『試験・スクーリング情報ブック』の活用について

8割を超える方が『試験・スクーリング情報ブック』を使って、年間のスクーリングや試験を受ける大まかな計画を立てたようです(図15)。

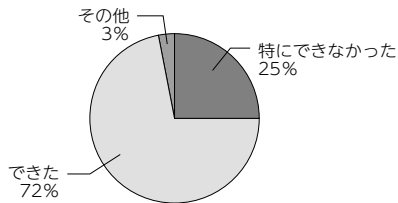


【図15】 『試験・スクーリング情報ブック』の活用について (N=142 ※無回答2)

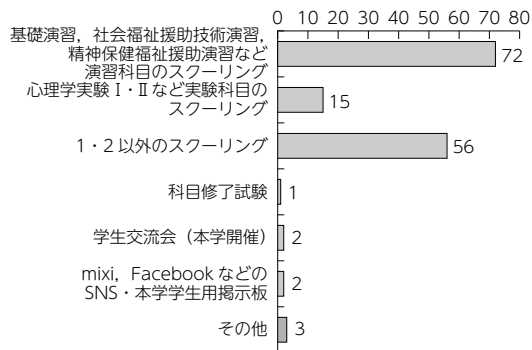
## 10. 学習仲間について

通信教育部で共に学ぶ「学習仲間」について、図16のとおり「できた」が7割程度となりました。学習仲間ができたきっかけとして、「社会福祉援助技術

演習などの演習科目スクーリング」「心理学実験などの実験科目スクーリング」のほか、「講義科目のスクーリング」も多いようです（図17）。



【図16】 学習仲間ができたか (N=141 ※無回答3)



【図17】 学習仲間ができたきっかけ (N=188 複数回答)

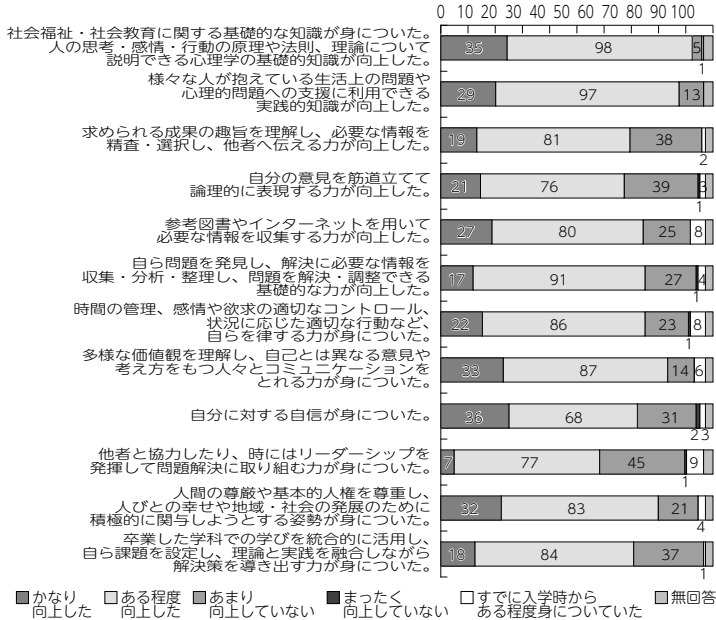
学習仲間と協力し合った具体的な内容としては下記のとおりです。

- ・お互いの近況を報告しあい、励ましあった。
- ・難しい科目やレポートについて、情報交換しあった。
- ・気分転換の飲み会を開いたりしました。
- ・これから先の展望についての情報交換。
- ・単位の取得システムなど分からない点について教え合ったり、学習をする上で不明な点について教え合ったりした。
- ・実習体験談を共有した。
- ・学習のコツなどを情報交換しあった。
- ・国家試験の問題を出し合うなどした。

## 11. 「学士力」の達成度

本学通信教育部は、学修において身につけていただきたい「卒業資格＝ディプロマ・ポリシー」を掲げています（『学習の手引き』参照）。これらの「学士

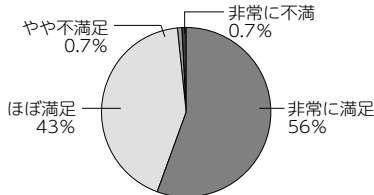
力」がどの程度向上されたかについては図18のとおりです。本学の学修を通して、多くの方がご努力の結果「学士力」を構成するさまざまな力を向上されたことが伺えます。



【図18】「学士力」達成について (N=144)

## 12. 東北福祉大学通信教育部で学び、どんなことに満足できたか

東北福祉大学通信教育部で学んで、9割以上の方から「非常に満足」「ほぼ満足」との回答を頂くことができました(図19)。



【図19】東北福祉大学を学んで満足できたか (N=138 ※無回答6)

具体的な声は以下のとおりです。

- ・ 国家試験を受けるためだけの(単位取得のためだけの)学習ではなく、福祉

について多くのことを学べ、自分が社会、職場でどう作用していけるかを考えることができました。

- ・ 自宅で、一人で学習を進めていかなくてはいけないので「辛い」と思うことが何度もありました。でも苦労した分「わかった」時はとても楽しいですし、もっともっと知りたいと思う気持ちが強くなりました。
- ・ 遠くに住んでいたため、オンデマンドがほとんどだったのですが、たまに会場スクーリングに参加した時は、本当に楽しかったです。先生は個性的で面白い方が多いし、現場で経験した話などは参考になりました。また周りの方といっしょに授業を受けることでやる気を高めることができました。学習仲間もでき、この方達の存在も私にとってはすごく大きかったと思います。時間や経済的に都合のつく方はできる限りスクーリングに参加されることをお勧めします。勉強だけでなく、いろんなことを得ることができました。
- ・ 他の誰かが東北福祉大学通信教育部に通うかどうか悩んでいたら、間違いなく通うことを薦めます。「自分は東北福祉大学通信教育部に通ってよかったよ」って。
- ・ 自分が入学する時にはどこか自信のないところもあり、卒業できるとは確信を持ってませんでしたから、無事に卒業でき、嬉しい気持ちと大学への感謝の気持ちでいっぱいです。テキスト内容、レポート提出、時間を有効に使う方法を考え、苦労しましたが、実りの多い毎日でした。
- ・ スクーリング・自主学習・レポートによってどの位自分の知識や価値観が得られているのか不安でしたが、卒業を目前にして振り返ると、状況に応じて適切に行動できたり、自分の行動・考え方も変化していることに気づき、学習に満足しています。
- ・ 幅広い年齢の方と関われ、この2年間は大きな励み、宝物となりました。遠方から年齢問わず共に講義を聞きスクーリングで元気をいただき、自分と向き合う貴重な学びのひと時を与えていただきました。
- ・ 満足できた点は、学習した経験、知識、自分自身の過去の体験など、大きく深められた点です。リハビリの専門職として、一人でも多くの患者さまが社会復帰し、社会活動に臨めるように活かしたいと思います。
- ・ 人生を振り返ってみたとき、ここで福祉を学ぶことがかなり異質な特異な出来事だった。情報科学を専門的に学んできており、「福祉」を意識することがない中で福祉大入学だった。聞いたことがあるが世話になったことのない福祉サービス。あったことも分からなかった福祉関係の法律の歴史の変遷、学べば学ぶほど自分の理解の及ぶ範囲の外側で点と点が線になっていく畏怖感があった。卒業してすべてがクリアに見えるようになることはなく、やはり福祉は複雑でくぐもっており、しかも常に変化しているらしい。まだまだ



だ、福祉の全てを理解するには至らないが、その中で得た知識や経験は無駄になることはないと思うし、そうしたくはないものである。

- ・人を理解する視点が広くなり、様々な見方があったことが理解できた。様々な困難にあっても乗り越えていける自信がついた。また、様々な困難にあった人と出会ったときに、相手や状況に応じて、どのように接していけば良いかを知ることができた。また、スクーリングでは、先生方の言葉が各々印象深く、講義に惹きつけられた。特に特講がすばらしかった。
- ・大学に入学したきっかけは、精神科看護の教科書には抽象的なケアしか書かれていないため、効果的な心のケアについて知りたくても答えが見つけれなかったことだった。入学後、心理学者の理論を学ぶことで、多くのことを習得できた。苦手な人に対する見方、攻撃してくる患者に対するイライラなど、他者理解が未熟であった為に、いろいろと葛藤していた。しかし、心理学を大学で学び、自己理解が進み、どのような場面でも、客観的な視点で物事に対処できるようになったと感じる。
- ・通信教育で良かったと思えることは、同じく仕事をしながら学ぶ大切な仲間がたくさんできたことです。また、私の子どもたちに、勉強をしている姿を見せられたことも良かったです。言葉で伝えるよりも、子どもたちにも刺激になったようです。卒業できたときの喜びは今でも忘れられません。母も「よく頑張ったね。お前だからできたね。」と涙を流して言ってくれました。一般の大学で経験できない気持ちを多く感じることができました。通信教育で学べたことを大変誇りに思います。次は、社会福祉士の国家試験に向けて頑張り、さらに次は精神保健福祉士の勉強もしたいという野望も抱いています。
- ・福祉に対する視点、考え方を具体的に聞くことができた。福祉の考え方と深さ、今までの自分の視野の狭さも知ることができた。
- ・専門学校を卒業し社会人となりました。いつの日か大学を卒業したいと思っていて、ようやく実現することができました。働きながらの学校生活だったので、予定より多く在籍することになってしまいましたが、思い切って入学し、学ぶことができ本当に良かったと思います。今後のステップアップにつながる時間になったと思います。
- ・知識、技術、人脈、価値観などなど、多くの出逢いを機に学び、培われた財産がたくさんあります。本当に入学してよかったと思っています。現役の学生時代よりも何倍集中し、意欲的に学び深めることができたように思います。一旦社会に出てからの学習は本当に実りあるものでした。
- ・2年間でとても多くのことを学ばせていただきました。スクーリングでの先生方の講義や直接相談を受けていただいたり、実習先で人生における師と呼

べる先生に出会うことができました。仕事をしながらの勉強は大変でしたが、とても充実した2年間でした。

- ・ レポートをまとめることで自分自身はそのことについてどう考えているかと言葉にすることを学びました。しかし、それはレポートをまとめるだけに限らず、仕事や生活のすべての場面において私はこう考えている、こんな風になっていると相手に伝えられるようになったことが一番の変化です。通学で講義を受けているだけでは学べなかったと思います。
- ・ すべてが自分の人生を一段豊かにしてくれました。勉強することで職業人としての誇りを持つことができ、多くの人と触れることでいろいろな視点で物事を専門的に見ることの訓練ができました。職場の理解や家族の援助があり、感謝はこれから自分の行動で返していきたいと思います。

◆次号では、実習・国家試験対策についてのアンケート結果をご紹介します。本アンケートにご協力いただきました卒業生の皆様に御礼を申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念いたします。